

女性消防分団による団車両の定期的な点検 及び積載資機材取扱訓練について

三重県津市消防団 津方面団
デージー分団長 櫻川政子

1 はじめに

津市は、平成18年1月1日に、津市・久居市・河芸町・芸濃町・美里村・安濃町・香良洲町・一志町・白山町・美杉村の旧10市町村が合併し、新「津市」が誕生しました。

三重県の中央部に位置する津市は、人口約28万5千人で、伊勢湾から奈良県境までの約710平方キロメートルの広大な市域を有し、気候は温暖で豊かな自然に囲まれています。

また、中部・近畿の両圏の結節点として交通アクセスにも恵まれ、さらに津市と中部国際空港を45分で結ぶ、高速船ターミナル「津なぎさまち」もあり、海外へのアクセスも良好です。さらに、三重県の県庁所在地として国の機関をはじめ行政の中核機関が集中しています。

2 津市消防団の概要

津市消防団は、平成18年1月1日の市町村合併に伴い、10消防団からなる連合消防団を経て、平成22年4月1日に1市一団化し、10方面団・71分団・定員2,287名を有する津市消防団として

新しい組織体制を構築しました。また、本年4月1日には、管轄エリアの、再編成により72分団となりましたが、年齢的には40歳代の経験豊富な中堅団員が多く、地域住民の安全安心を守るため日々消防団活動に取り組んでいます。

津市消防団の女性消防団員は、団本部付けの学生機能別団員53人と8方面団に所属している女性分団員100人を合わせて153人が入団しており、津市消防団員全団員の約7パーセントを占めています。

3 デージー分団について

合併以前の平成7年4月、旧津市に初めて女性消防団員7名が採用され、当時の主な任務は、防火チラシの配付、消防本部主催イベントの補助等、火災予防・啓発を中心とした広報活動でした。結成以来10年が過ぎ、活動実績が認められた女性消防団員は、平成18年の市町村合併に併せ、女性だけで編成された津方面団デージー分団が誕生しました。

「デージー」とは花の名前で、日本名でヒナギクと呼ばれており、純潔・無邪気・幸福・明朗と



点検の様子①



点検の様子②

言った花言葉で知られ、ヒナギクを漢字の語呂合わせで、火が無くなるのに効くように《火無効く》とし、デージーと名付けました。

平成26年4月1日現在、団員も22名となり男性団員に負けず積極的な消防団活動を行っています。

(1) 多機能型消防車の定期点検

平成20年2月、日本消防協会から津市連合消防団に、消防団の装備充実と活動の向上を図ることを目的として、消火及び救助資機材を装備した消防団多機能型消防車（以下「多機能車」という。）の寄贈があり、津市連合消防団の津方面団に配置が決定したことから、この多機能車はデージー分団の専属車両として配備されました。

デージー分団にとって、多機能車を運用するにあたって男性団員と同様に消防団車両での災害活動をやっていくべきだという士気が高まり、これまでの火災予防・啓発活動に加え、警防訓練・救急訓練等にも積極的に参加するようになり、当然のごとく日常の多機能車の点検及び積載資機材の取扱訓練が定期的に行われるようになりました。

多機能車の点検及び積載資機材取扱訓練は、毎月2回、4名から5名が交代で実施しており、当初指導にあたった消防職員や先輩男性団員の厳しい指導に泣きだす女性団員もいましたが、今では、自分たちで反復訓練が出来るようになり、有事に備え技術の向上に努めています。



点検の様子③



点検の様子④



点検の様子⑤

(2) 女性団員の反応

訓練終了後には反省会も忘れることはなく、危険予知トレーニング等を含めた安全管理面でのチェックもかかさず行っています。

女性団員からは、「男性団員に少くらい近づけたかな」と喜ぶ反面、「女性団員の活動が多様化したこともあり、必然的に市民の注目度が増す中、失敗が許されないというプレッシャーが心地よい」との意見もあります。



放水訓練の様子

(3) 実施後の効果

「訓練等で多くの失敗を経験し、スキルを向上させ、実災害で結果を出そう」と、全員が一致団結し、更なる飛躍のためにまい進しています。

多機能車等の定期点検及び訓練に携わったことで、広報活動のみではなく、毎年津市総合防災訓練に多機能車で参加しています。

積載資機材を使用するなど、倒壊家屋救出訓練

に参加することで、女性の持つソフト面だけではなく、実災害での活動にも自信が持てるようになりました。

自己研さんを忘れず、今後も地域住民の安全安心を護るため日々努力し、女性消防団員として積極的に活動していきます。



機材取扱訓練の様子①



機材取扱訓練の様子②